

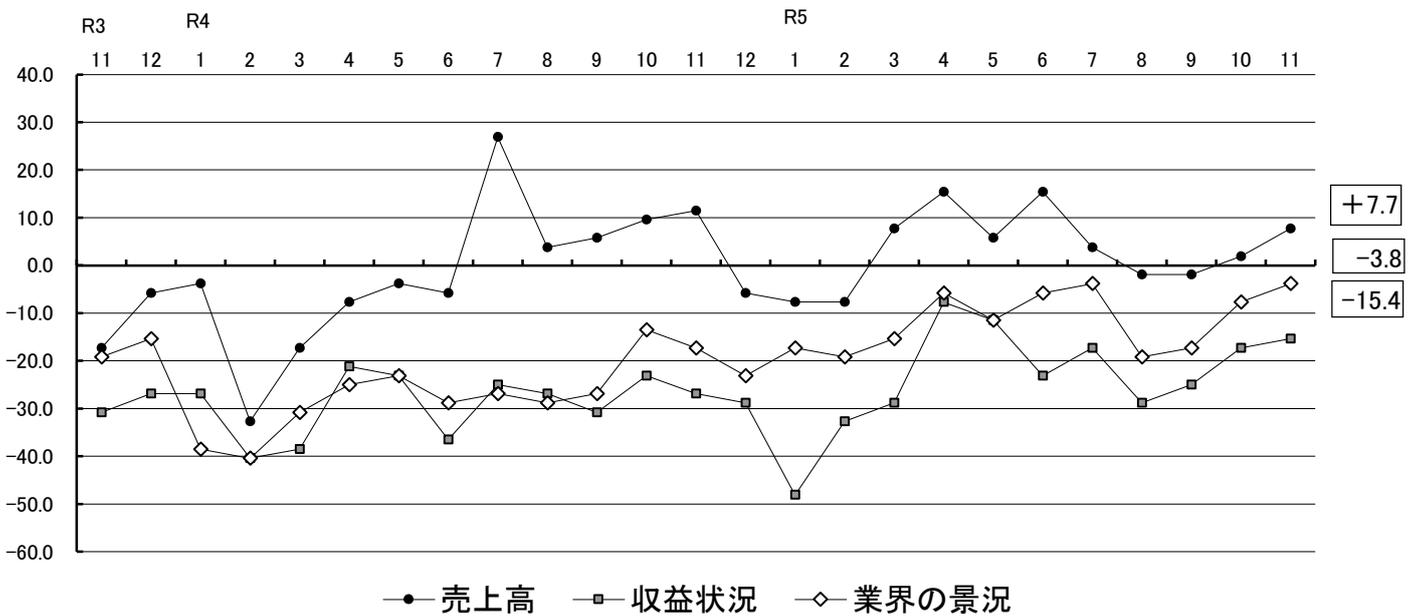
中小企業団体情報連絡員報告結果(令和5年 11 月分)

栃木県中小企業団体中央会

この報告結果は、栃木県中央会において設置している中小企業団体情報連絡員（中小企業組合（協同組合、商工組合等）の役職員 5 2 名に委嘱）による、所属組合の組合員企業の全体的な景況です。

- 主要 3 指標は、先月に引き続き、売上高・収益状況・景況のいずれも上昇した。
- 製造業では、「食料品製造」が先月に引き続き改善した。非製造業では、「小売業」が改善した。
- 全体的に回復傾向が見られるが、原料価格高騰による収益への圧迫が続いているとともに、人手不足の影響が業績に出始める等、深刻な問題となっている。

県内主要 3 指標の推移(前年同月比 DI 値)



主要3項目	県内		全国	
	DI 値	前月比	DI 値	前月比
売上高	+7.7	+5.8	-0.6	-1.3
収益状況	-15.4	+1.9	-19.1	+1.2
業界の景況	-3.8	+3.8	-18.8	+0.4

売上高

当月の県内売上高 DI 値は、前月より 5.8 ポイント上昇し、+7.7 ポイントとなった。全国においては、前月より 1.3 ポイント低下し、-0.6 ポイントとなった。

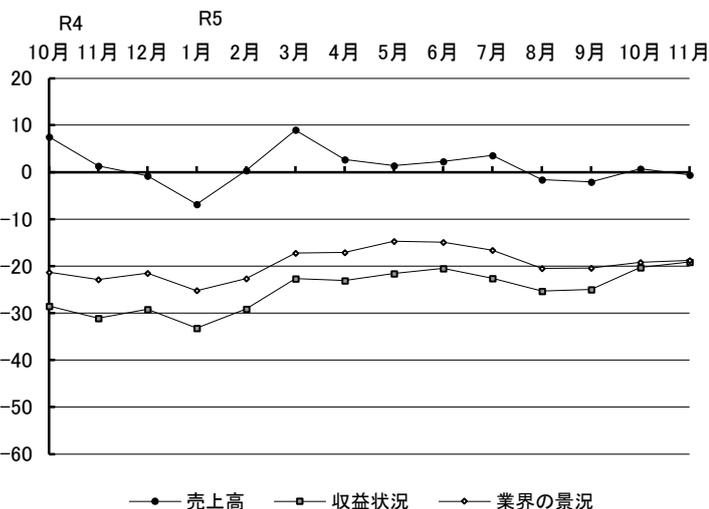
収益状況

当月の県内収益状況 DI 値は、前月より 1.9 ポイント上昇し、-15.4 ポイントとなった。全国においては、前月より 1.2 ポイント上昇し、-19.1 ポイントとなった。

業界の景況

当月の県内業界の景況 DI 値は、前月より 3.8 ポイント上昇し、-3.8 ポイントとなった。全国においては、前月より 0.4 ポイント上昇し、-18.8 ポイントとなった。

全国集計結果の推移



-概況-

11月の前年同月比DI値は、「設備操業度」が大きく低下した。主要3指標は「売上高」は+5.8ポイント、「収益状況」は+1.9ポイント、「業界の景況」も+3.8ポイントといずれも先月に続き上昇した。

製造業では、「食料品製造」が飲食や会合の回復により改善している。「木材・木製品」では住宅着工数の減少、「鉄鋼・金属」では自動車関連の発注延期により悪化している。原材料・燃料費の高止まりの影響も収益を圧迫している。

非製造業では、「小売業」が先月に続き改善傾向にある。11月は前年比不変とする報告が多くみられた。

複数の業種で円安の影響により引き続き原材料等の高騰、高止まりの状況にあり、さらに価格転嫁も進んでおらず、収益の圧迫が続いている。

人員確保が難しく深刻な人手不足が大きな問題となっており、受注量・仕事量の抑制に繋がっているケース等、業績に影響が出始めている。また、物流コストの増加も収益を圧迫しており、2024年問題による運送費の大幅な値上がりが懸念されている。

図表1 【業種別・指標別DI値一覧表】

	売上	在庫	価格	条件	収益	資金	設備	雇用	景況
食料品製造	100.0	-25.0	50.0	-25.0	50.0	-25.0	25.0	25.0	50.0
繊維・同製品	75.0	0.0	50.0	25.0	50.0	25.0	25.0	0.0	0.0
木材・木製品	-75.0	-50.0	25.0	0.0	-50.0	0.0	-50.0	0.0	-75.0
印刷	-100.0	0.0	100.0	0.0	-100.0	0.0	-100.0	0.0	-100.0
窯業・土石	25.0	-25.0	50.0	0.0	25.0	0.0	-50.0	0.0	25.0
鉄鋼・金属	-50.0	-50.0	0.0	0.0	-50.0	0.0	-50.0	0.0	0.0
一般機器	25.0	25.0	0.0	0.0	25.0	25.0	25.0	0.0	25.0
製造業	12.0	-20.0	32.0	0.0	4.0	4.0	-16.0	4.0	0.0
卸売業	0.0	-33.3	33.3	0.0	-33.3	0.0	/	-33.3	33.3
小売業	0.0	0.0	0.0	-28.6	-57.1	-14.3		0.0	-28.6
サービス業	0.0	/	50.0	0.0	-50.0	-16.7		16.7	0.0
建設業	20.0		40.0	0.0	-20.0	0.0		-20.0	-20.0
運輸業	0.0		0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0
その他	0.0		0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0
非製造業	3.7	-10.0	22.2	-7.4	-33.3	-7.4	0.0	-3.7	-7.4
全体	7.7	-17.1	26.9	-3.8	-15.4	-1.9	-16.0	0.0	-3.8

図表2 【指標別DI値の推移】

	4年		5年		6年		7年		8年		9年		10年		前月比
	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月		
売上高	11.5	-5.8	-7.7	-7.7	7.7	15.4	5.8	15.4	3.8	-1.9	-1.9	1.9	7.7	5.8	
在庫数量	5.7	-5.7	2.9	2.9	-2.9	5.7	0.0	-8.6	-11.4	-11.4	2.9	-17.1	-17.1	0.0	
販売価格	34.6	30.8	23.1	25.0	36.5	30.8	36.5	34.6	30.8	19.2	23.1	26.9	26.9	0.0	
取引条件	-11.5	-7.7	-11.5	-9.6	-11.5	-9.6	-7.7	-13.5	-15.4	-11.5	-11.5	-3.8	-3.8	0.0	
収益状況	-26.9	-28.8	-48.1	-32.7	-28.8	-7.7	-11.5	-23.1	-17.3	-28.8	-25.0	-17.3	-15.4	1.9	
資金繰り	-21.2	-21.2	-30.8	-17.3	-19.2	-9.6	-11.5	-15.4	-11.5	-13.5	-11.5	-3.8	-1.9	1.9	
設備操業度	12.0	0.0	-4.0	-8.0	-8.0	-0.0	-0.0	8.0	12.0	-20.0	0.0	12.0	-16.0	-28.0	
雇用人員	-5.8	-3.8	-1.9	-3.8	-7.7	-3.8	-7.7	-5.8	-7.7	-9.6	-5.8	0.0	0.0	0.0	
業界の景況	-17.3	-23.1	-17.3	-19.2	-15.4	-5.8	-11.5	-5.8	-3.8	-19.2	-17.3	-7.7	-3.8	3.9	

特記事項

情報連絡員報告（令和5年11月分）

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
食料品	和洋菓子製造業	年末になり、コロナ等も落ち着き会合も開かれ、需要も増加傾向にある。しかし、原材料その他の高騰が心配だ。また、値上げによる消費の減少もある。
	めん類製造業	年末に向かい、食品の小売販売も上向いてきている。前月に続き価格転嫁が進んでいるが、販売数量の減少傾向が続いている。消費者の生活防衛意識が強く、同じような品なら少しでも安いものを求めている傾向が顕著だ。また、飲食業関係の需要は宴会需要・会合・外出の増加に伴い順調に増えてきている。この調子でいけば、コロナ前を超える売り上げが期待できそうだ。問題点は人手不足だ。注文の増加で生産を増やしたいと思っても、なかなか人材が集まらない状況で困っている仲間もいる。原材料についても、価格改定後に各仕入先から値上げの通知があり、対応に苦慮している。
繊維工業	縫製業	昨年と比較すると、注文は多く取得でき売上は増加した。ただ安定した注文ではなく、多方面からかき集める状況が続いている。
	絹・レース・繊維粗製品製造業	先月から春物のオーダーが入り始めたが、動きは限定的で、業界全体で見渡すと衣料関係はファストファッションと高級ブランド以外は静かな様子。円安傾向が続き、原料の更なる値上げの噂も聞かれ、当分厳しい状況は続くと思われる。適量・適正を見極める経営を行いたい。
木材・木製品	一般製材業	住宅用木材小売市場は安定してきたが、住宅着工数の減少により流通量は少ない。先行き不透明感が否めない状態である。
	家具・建具製造業	毎月のように書いているが、相変わらず円安で資材価格が高騰したままであり価格転嫁が進まず苦戦している。売上は、住宅着工の減少が顕著になり、卸売り総額も物価高に相反し頭打ちとなっている。また、インボイス導入で事務処理など混乱が見受けられる。如何せん行政対応が多すぎ、経営を圧迫しかねない作業量である。
印刷	印刷業	原材料の値上がりは落ち着いてきている。年度・年度末に向けた印刷需要は低調。
窯業・土石製品	石灰製造業	鉄鋼向けは、昨年に比べ減少した。建材関係は、昨年に比べ増加した。肥料関係は、昨年に比べ若干減少した。全体では、昨年に比べ若干減少した。
	陶磁器・同関連製品製造業	陶器市明けで売上が下がるかと思いましたが、引き続き原材料の売上が伸びています。粘土工場の老朽化が申告な問題であり早急に検討しないといけません。それと全国的に原料の枯渇は窯業界の大きな悩みです。
鉄鋼・金属	金属製品製造業	自動車金型関連は発注延期など仕事量の確保が難しく、厳しい年末になりそうだ。見積もりはあるが発注にならない。人材派遣も人手不足である。自動車部品は増産にあったが、12～1月は減産傾向になりそうだ。物流2024年問題により、11月から運送費が大幅値上がりとなり経費を圧迫している。タクシー・代行も来ない心配から、忘年会中止の声も上がっている。体調不良者が多い。
一般機器	一般機械器具製造業	前年同月と比較し大多数が前年同様の組合員企業から報告を受けている。相変わらず仕入れ資材や諸経費等の上昇懸念もあり、先行きの不安要因が払拭されていない状況だ。これに対し販売価格の転嫁は、少しずつではありますが転嫁が出来ている企業があるものの、企業間でまちまちといった状況だ。収益状況についても全般的に不変といった企業が多いとの結果報告だった。技術者については将来深刻な状況になるのではと懸念している。
	一般機械器具製造業	製造業が少々活況を見せ始めたように感じる。建設業は人手不足で活発に求人活動を行っているが、その割には全体的に盛り上がりがない。

卸売業	各種商品卸売業	販売価格は上昇とする企業が多く、業況等は前年同期に比べ好転とする企業が多い。他は不変とする企業が多い。
	各種商品卸売業	業種・取扱商品によって流通量の増減に差がある。燃料価格は補助金により価格上昇は落ち着いたが、未だ高値が続いており、物価高騰と相まって収益を圧迫している。従業員の人員確保が難しい。(募集をかけても集まりにくい。)
小売業	その他の小売業	先月に続き、気温の低下に伴いガス・灯油の使用量は増加傾向にある。売上自体は増加傾向にあり、収益も比例して増加はするものの、原価・配送コストの高止まり状況によって、微増、場合によっては悪化傾向だ。
	各種商品小売業	新型コロナウイルス感染症の第5類引下げに伴い客足の回復に期待したものの、9月以降低調な状態が続いている。気温が高い日が続いたことも大いに関係すると予測されるが、12月に入り気温が大幅に下がったことで良い方向へ影響が出ることを願う。
サービス業	給食センター	引き続き状況は好転せず。最低賃金の上昇、物価高、ガソリン代高騰など経営環境は厳しい。また、顧客である地元企業の廃業や縮小が止まらず、売上減少に繋がっている。消費税減税など大胆な景気刺激策を実行しない限りは、閉塞感を打破するのは難しく、経営努力だけで乗り切るのは厳しく感じる。とにかく企業の負担感を軽減する措置を考えて欲しい。給食業界においては、広島で大きな同業界が倒産してしまったことからビジネスモデル的に大変厳しい状況である。
	旅館・ホテル	大手を除いて、宿の平日休館が定着しつつある。そのような中、宿への電話予約が出来ないとの問い合わせが組合へ来るようになった。宿としては、ネット予約が主流となる中、従業員不足解消策としてやむを得ない措置で、その穴埋めとして宿泊単価アップで凌いでいる。宿の年中無休が死語になるほど業界は急変している。一方、インバウンドに苦手な当地区でもリニューアルしたホテルが外国人従業員を積極的に雇用し、外国人観光客を誘致するなど新たな動きが出てきた。
建設業	職別工事業	工事受注高の減少により、売上高・収益面において対前年度に比べ減少。円安の影響を受け、仕入れ価格はさらに増加傾向にある。
運輸業	貨物自動車運送業	地域の事業者では、食料品・飲料の荷動きが悪い。価格高騰が要因になっている。鉄鋼類輸送はやや改善したが、持ち直しには期待できない。トラック輸送のコストが上昇しているが、再度の値上げを要請できない事業者が少なくない。大手の事業者はできるが、中小零細企業では値上げを切り出せない状況にある。年末にかけて受注増を期待する。
	一般乗用旅客自動車運送業	宇都宮駅東口側はLRTの影響で、タクシーに乗車する人の減少がみられる。特に営業回数が個人タクシーの場合、半分程度になっている。12月4日には運賃改定があるため、客離れを心配している。
その他の非製造業	大谷石採石業	大谷周辺観光拠点施設(大谷コネクト)がオープンしたりテレビ番組で放送されるなどで観光客が増えているが、大谷石の販売に結び付かないジレンマがある。